

# 平成27年第1回帯広市公営企業経営審議会 議事録要旨

日 時 : 平成27年2月23日(月) 午前10時

場 所 : 帯広市役所10階第5A会議室

## 議題(1) 平成27年度予算概要について

- |           |   |
|-----------|---|
| 委員<br>事務局 | <p>帯広川下水終末処理場の事業計画の中の長寿命化計画について。</p> <p>施設の維持において改築更新が伴いますが、十勝川浄化センターへの汚水処理部分についての統合も視野に入れながら、使えるものは使い、廃止した方が効果が大きいものは廃止し、費用対効果を考えながら、経費を抑えた維持を行う計画であります。</p>       |
| 委員<br>事務局 | <p>十勝川浄化センターへの統合に向けてのスケジュールについて。</p> <p>施設の耐用年数の関係や他町との調整がありますので、平成33年から42年の次期下水道計画のなかで、一番効率的な時期を見極めながら整理していくものです。</p>  |
| 委員<br>事務局 | <p>十勝川浄化センターに統合された場合、どのように運営されるのか。</p> <p>十勝川浄化センターは、帯広市、音更町、幕別町、芽室町の1市3町で運営されている一部事務組合です。</p> <p>統合に伴う建設投資は、それぞれの市町の負担となりますが、維持管理費は、処理水量の割合によって負担割合が決められております。</p> |
| 委員<br>事務局 | <p>統合にあたって、流域別下水道整備総合計画の見直しについて。</p> <p>北海道では、平成28年度に予算計上し、概ね2年ぐらいで見直しされる予定です。</p> <p>このことから、北海道及び流域構成団体の3町と今後も情報交換を密にし、関係機関と連携した取り組みを行い、計画の整合など調整を図っていきます。</p>     |
| 委員<br>事務局 | <p>十勝川浄化センターへ統合後は、帯広川下水終末処理場はどの部分を担っていくことになるのか。</p> <p>帯広川下水終末処理場は汚水と雨水を処理する機能を有しており、統合する部分は、汚水処理の部分ですので、雨水処理をする機能についてはそのまま残し、今までどおり雨水処理を行うものです。</p>                |

委員  
事務局 平成27年度水道事業会計予算の特徴について。  
基幹施設である稲田浄水場、中島配水場の整備などによる改修事業費が増加したことにより、前年度予算より増額となっております。

委員  
事務局 企業誘致を考えると大口需要家の水道料金を安くすることを検討すべきでは。  
企業の料金を下げることにより、赤字になるわけにはいきません。また、その赤字分を一般家庭に求めることにはなりませんので、今のところ考えていません。  
企業誘致、企業支援は水道料金ではなく、別の政策を考えていかなければならないものです。

委員  
事務局 下水道のBCP（事業継続計画）について。  
平成26年度から行っている下水道インフラ基本計画、いわゆるアセットマネジメントの中で、平成27年度から計画づくりを行う予定です。

委員  
事務局 下水道の広域化について。  
帯広市と近隣3町で構成されている十勝川流域下水道ですが、今後は、統合により将来的に一元化されていく方向ですが、それ以上の広域化となりますと、地形的なことを勘案しつつ費用対効果を見極めながら検討していく必要はあると考えています。

委員  
事務局 水道の長期事業計画では人口減少の影響を考慮しているものなのか。  
平成27年度以降の工事は、配水池から水を送るための電気、機械の更新工事ですので、人口減少の分を反映できない工事となっております。  
また、帯広市は稲田浄水場、十勝中部広域水道企業団からの2水源を持っており、相互に補完する機能を持ち合わせていることから、今の施設能力は必要と考えております。  
なお、配水管の入れ替えについては、人口を加味しながら管の口径を決めていきます。

委員  
事務局 帯広市内の学校に設置されている緊急貯水槽の老朽化について。  
ダクタイル鋳鉄管という非常に長くもつ管を用いており、中の水につきましても、常に循環しており、また、点検等も毎年行っておりますので、問題ありません。

委員  
事務局

**下水道の統合に関して、他町との話の進み具合について。**

平成 26 年度から本格的に 3 町と話し合いを行っております。

芽室町につきましては、既に全量、十勝川浄化センターで処理しており、音更町、幕別町につきましては、統合するかどうかの調査を行っている段階です。帯広市が統合することについては、大まかには了解を得ている状況です。

委員  
事務局

**下水道管渠のカメラ調査について。**

古い管を対象に行ってきており、継手の破損、あるいは脆くなっている部分が多少見られます。

委員  
事務局

**下水道の空洞化調査の優先順位について。**

下水道の創設以来の古い管（合流区域）の調査を行い、その結果を見て、今後の計画を立てる予定です。

委員  
事務局

**水道の高濁度について。**

稲田浄水場は河川の表流水ではなく伏流水から取水しており、濁度が低くリスクは限りなく少なくなっております。

薬品につきましては、凝集剤であるポリ塩化アルミニウムを濁度に合わせて適量注入しております。

委員  
事務局

**上下水道の安心・安全に対する施設整備について。**

平成 25 年 11 月に長期財政収支計画の見直しを行い、老朽化した管である塩化ビニール管の更新事業の前倒しを行ってきております。

これによりまして、水道管路の近代化率は 9 割に近づいており、全国的にも帯広市は先行している状況です。

下水道についても、長寿命化計画に沿って行ってまいります。